

相次ぐ災害に 祈りと支援



大規模な土石流発生後の8月30日、ネパールのヌワコット郡デビガト村で、救助した高齢者を安全な場所へ搬送する警官たち（OSV）

国際

- ネパール 氷河崩壊
「同国史上最悪の災害」／教会の支援始まる／今こそ行動を起こす時 2面
- 教皇、コロンビア地震に祈りと寄付 2面
- インドネシア東海岸沖で大地震 2面
- 教皇、聖母マリアの被昇天のミサ 魂の清らかさこそが天の国へ導く 3面
- 教皇メッセージ
被造物を大切に作る世界祈願日／祖父母と高齢者のための世界祈願日／
世界難民移住移動者の日 3面
- その他の国際記事 4面

国内

- 関東大震災から103年 キリスト者追悼祈祷会 5面
- 沖縄軍事化への危機感訴える 具志堅隆松さんら記者会見 5面
- 福島のNPO・若者・教会が共に研修 「新しい普遍的な連帯」模索 5面
- カリタスのとサポートセンター 能登南部豪雨 羽咋で支援を開始 6面
- その他の国内記事 6面
- 2023～26年叙階の司祭・助祭・終身助祭 ③ 7面
- 教皇レオ14世初の回勅 「人間の偉大さ」要約 第3回 8面

- 主日の福音解説 9・10面
- 文化 11面
企画展示「長崎の聖母マリア」長崎 大浦天主堂キリシタン博物館
神の“在り方”を問い続け… 宮本久雄神父 著作選集(全3巻)を完結
- 短歌・俳句 11面
- きょうをささげる (10月の祈り) 11面
- 訃報、告知板、番組、お知らせ 12面

オンラインで日々ニュースを配信している「カトリックジャパンニュース」のダイジェスト紙、月刊「カトリックジャパンダイジェスト」をお届け致します。本紙は無料です。

カトリックジャパンニュース



カトリックジャパンダイジェスト 第18号

発行＝カトリック中央協議会広報部

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館

電話(03)5632-4435 FAX(03)5632-7030

国際

ネパール 氷河崩壊

「同国史上最悪の災害」

【バチカン8月27日OSV】教皇レオ14世は、ネパールと中国の国境付近で8月26日に発生した氷河崩壊によって大規模な土石流が繰り返し襲い、多数の死亡が報じられている事態に悲しみを表した。

教皇に代わって、教皇庁国務省長官ピエトロ・パロリン枢機卿は8月27日に電報を送り、人命が奪われ、周辺が壊滅的に破壊されたことに、哀悼の意を表した。

ヒマラヤ周辺の氷河について、国際総合山岳開発センター（ICIMOD）は今年3月、加速度的に融解していると発表し、具体的な方策を取るよう警告していた。同

センター長は、「今世紀初めに比べ氷河の融解率が2倍になった」と指摘した。

バチカン通信社「フィデス」は27日、ネパールの使徒座管理者、サイラス・クリシュナ・ボガティ神父のインタビューを発表。

神父は今回の災害を「ネパール史上最悪の災害」と呼んだ。



記事全文

教会の支援始まる

【カトマンズ(ネパール)8月31日OSV】

米国司教協議会の海外人道支援・開発支援局のカトリック・リリーフ・サービス（CRS）のセンデル・クマル・グルーナサン氏は、災害対応においてカリタスネパールを支援するために、ネパールの首都カトマンズを訪れた。

グルーナサン氏は、主要な道路の多くが流されてしまったため、まず代替経路を探しているという。CRSとカリタスネパールは、長期的な支援も見据え、「シェルター」と、安全な飲み水確保のための「水道の復旧」、また共同体が「生活

を再建できるような支援を重点的に取り組んでいくと、支援の方向性を示した。

同時にCRSは、トラウマ（心的外傷）の対処にも当たるといふ。「復興には長い時間がかかるでしょう」と同氏は話し、そのため被災した人々と連帯し、生活の再建を支えていくことが重要になると強調した。



記事全文

今こそ行動を起こす時

【カトマンズ9月4日OSV】カリタスネパールの事務局長を務めるセシリア・ドゥルガ・シュレスタ修道女は、世界におけるネパールの温室ガス排気量は0.1%未満にもかかわらず、ネパールが気候変動の大きな影響を被っていることを「深刻な不正義」だと指摘する。セシリア修道女は強調する。「今回の災害は、気候変動が『遠くの脅威』ではないという、大きな痛みを伴った忠告です。この支援は慈善活動ではありません。正義の問題であり、弱い立場に置かれた共同体の権利の問題です」。そして世界は議論し、今こそ具体的な行動を起こす時だと訴えた。



記事全文

■ カリタスジャパン救援募金受付中 ■

郵便振替：00170-5-95979

加入者名：宗教法人カトリック中央協議会カリタスジャパン

*記入欄に「ネパール」と明記。

ネット銀行利用時などの詳細は⇒



9月3日、土石流で亡くなった夫の火葬が首都カトマンズの寺院で行われ、嘆き悲しむ妻パンデイさん。夫は行方が分からないため、火葬儀式にはその姿を模した人形が使われた（OSV）

教皇、コロンビア地震に祈りと寄付
バチカン通じてさらなる支援も示唆

【バチカン8月13日OSV】教皇レオ14世は、8月10日に発生した大地震の影響で混乱するコロンビアに、人道支援のために10万ユーロ（約1800万円）を寄付した。バチカンニュースによると、この寄付はマグニチュード7.4の地震に見舞われた教区のために使われる。さらなる支援はバチカンの医療ケアワーカーとコロンビア司教協議会との協議を経て決定される。AP通信によると、コロンビアの大統領は、死者数が265人に達したと述べ、民間データベースでは4000人以上が行方不明と推計されている。

南米各国も食料、医薬品、その他の人道援助を行っている。ラテンアメリカ・カリブ司教会議は、南米全体の司教協議会に、被災地



8月11日、コロンビア・カリ市のビル倒壊現場で、救助・捜索活動をする救助隊員（OSV）

の共同体が将来への希望と信頼を再び持つよう、寄り添い、祈り、連帯して協力してほしいと呼びかけた。



記事全文

インドネシア東海岸沖で大地震
教皇、祈りと霊的寄り添い示す

【バチカン8月17日OSV】インドネシアの東海岸沖で8月15日、マグニチュード7.7の大地震が発生したことを受け、教皇レオ14世は同国国民に寄り添いを表し、祈りをささげた。

震源は東ヌサ・テンガラ州で、局地的な津波と何百回もの余震を引き起こしている。国家災害対策庁によると、少なくとも53人が死亡し、約5500人が家を失った。教皇庁国務省長官ピエトロ・パロリン枢機卿は8月17日、教皇に代わってインドネシアのエンデ教区のパウルス・ブディ・クレデン大司教に電報を送り、バチカンは地震の被害に深く心を痛めており、負傷者と避難を余儀なくされている人々に霊的に寄り添うと述べた。

インドネシア司教協議会の「ミリフィカニュース」によると、エンデ教区の住民たちも、土砂でふさがれた道路、損傷した家屋、余震による不安に直面している。数件の教会は構造的な損害を受けており、エンデ教区は司祭たちに建物の安全が確認されるまで、ミサは屋外で行うよう注意を促した。



8月15日の地震発生後、病院の野外避難所への患者搬送を手伝う警察官ら（OSV）



記事全文

国際

教皇、聖母マリアの被昇天のミサ
魂の清らかさこそが天の国へ導く

【カステルガンドルフォ（イタリア）8月15日OSV】キリスト者は、この世のうわべだけの基準ではなく、尽きることのない愛に満ちた人生を通して明らかにされる聖母マリアの真の美しさを熟考するよう求められている。

8月15日、聖母マリアの被昇天を記念する祭日に当たり、滞在中のローマ南東のカステルガンドルフォにあるビラノバの聖トマス教会で、ミサを司式した教皇レオ14世は語った。

説教の中で教皇は、まずこの日の第1朗読で読まれた「ヨハネの黙示録」を振り返った。「一人の女が身に太陽をまとい、月を足の下にし」（12・1）という箇所は、「天の国と地上、限りある時間と永遠が、マリアの心の中で出会う」ことを意味すると説明。

「この教会の祭壇に描かれた美しい若い女性」と、私たち人間に共通するものを理解するために、キリスト者は「二つのしるし、すなわち神の母の朽ちることのない体とその無原罪のみ心」を結び付けねばならない、と教皇は述べる。

「なぜなら、まさにマリアにおいて — わたしたちにおいてもそうであるように — 神の恵みによって人格全体を照らし、変容させ、天の栄光へと導くのは、靈魂の清らかさだからです」

「日々の生活の中で、多くの年月と苦しみを重ねながら、周囲に穏やかさ、親切心、平和を広めることができる人に出会います。その反対に、外見は魅力的であっても、かたくなで冷たい心を持った人にも出会うでしょう」

神の美しさを「見だし、育む」ために、キリスト者はその美しさを「高齢者のしわに、子どものあどけない顔に、大人の成熟した姿に、青年の生き生きとした様子に、作業服や道具に、祭日の飾り



8月15日、カステルガンドルフォにあるビラノバの聖トマス教会で、聖母の被昇天の祭日のミサを司式する教皇レオ14世（OSV）

付けの中に」見いだせるようにならなければならない。

これらの現実の一つ一つに、「天の国を垣間見ることができる」独自の愛の物語が含まれているからだ、と教皇は付け加える。

「愛は人間の最も美しい装飾品です」と教皇は述べ「愛は私たちを変え、変容させ、高尚な者とし、引き上げてくれます。同時に、私たちの人生が激変するさなかにあってさえも、私たちを軽やかに、自由に神に近づけてくれます」

最後に教皇は、マリアがいとこのエリサベトを訪ね、「主の偉大さを宣言する」この日の福音箇所（ルカ1・39—56）を取り上げ、そこにあるマリアの謙遜な賛歌を理解するために、キリスト者は遠くを探す必要はないと断言する。

そして、「長い一日の後」、子どもたちの相手をして疲れ切った両親、孫の世話をする祖父母、倫理的に勇敢な青年、「ほんの少しの天の国の香りを地上にもたらす助けをしてくれる」どこにでもいる労働者たちなどの例を挙げた。

「被昇天の聖母マリアの美しいみ顔は独特のもので、あらゆる表現を超えますが、同時に私たちにはとても親しみ深いものでもあります」「今まさにこの時でさえ、私たちは信仰のうちに日々差し出すいのちを共に分かち合う兄弟姉妹という身近な人々の中に、聖母マリアのみ顔を見ることができるのです」



記事全文

教皇メッセージ

被造物を大切にする世界祈願日

紛争は心の状態の現れ

【バチカン8月20日OSV】戦争によってもたらされた社会的・生態学的破壊は、単に政治的な失態を表すだけでなく、回心を必要とする分断した心に根差す倫理的危機をも表している。

暴力、不正義、環境破壊は単に「制度や構造の不備に起因するだけのものではありません。それらは『人間の心に根ざす、あのより根源的な不均衡と結びついている』のです」と教皇レオ14世は、9月1日に記念する「被造物を大切にする世界祈願日」のメッセージの中で語る。

「戦争の傷と大地の荒廃は、人間の心の状態と深く結び付いています。人間を苦しめる争いは、内なる不和や分裂が、さまざまな仕方で外に現れ出たものなのです。心が道を誤れば、人との関わりも病み、私たちの築いている制度の数々にもその乱れが映し出されるようになります」



記事全文

祖父母と高齢者のための世界祈願日

「わたしがあなたを忘れることは決してない」（イザヤ49・15）

教皇レオ14世は、今年の「祖父母と高齢者のための世界祈願日」（日本では9月20日）に当たり、全ての人、特に若者から、祖父母や高齢者に「教皇の寄り添いと愛情を」届けてほしいとメッセージを送った。「わたしがあなたを忘れることは決してない」という預言者イザヤの言葉が、「優しく愛情のこもった出会いのかたちをとりますように」

教皇は、人間にとって高齢期は、「霊的生活を始めたり再開したりするよい機会」だとも指摘。多くの人にとって、神の優しさの発見は、「時として人生の最後の段階で」行われると述べる。さらに「脆弱であることを恐れなくてください」と呼びかけ、脆弱さは、それを受け入れ、認めるときに、「心の深い和解と真の平和を与えることができるかたへの祈りへと、心を開いてくれるのです」と説いた。メッセージ全文はこちら（中央協サイト）⇒



世界難民移住移動者の日

移住者の子の窮状に無関心でいられない



大人の同伴者がいない移住者たち（OSV）

【バチカン8月14日OSV】世界はもはや移住者の人々、特に子どもたちの窮状を管理すべき問題、あるいは数量化できる問題として見てはならず、人間の権利と尊厳の保護を求める「呼びかけ」として捉えなければならない、と教皇レオ14世は8月14日に教皇庁から発表された9月27日「世界難民移住移動者の日」のメッセージの中で述べる。「子どもたちは、具体的な顔を持ち、それぞれが今に至る経緯があり、私たちの良心に訴えかけます」「私たちはこのような苦しみに、無関心でい続けることはできず、慣れてしまってもいけません」



記事全文

国際

教皇、スーダンの内戦に平和を訴え
ウクライナとロシアの犠牲者に祈り

【バチカン8月10日OSV】教皇レオ14世は、北東アフリカにあるスーダンでの国軍と準軍事組織間の内戦の即時停戦と、紛争に巻き込まれている罪のない市民への人道支援を呼びかけた。

教皇は8月9日、バチカンのサンピエトロ広場での「お告げの祈り」に集まった巡礼者たちに英語で語りかけ、現在も続く内戦、特に北コルドファン州の州都エルオベイドで苦しむ人々を憂慮した。

教皇の発言は、国連が先頃、この都市が大量虐殺の場と化す危機にひんしていると警告したことを受けたもの。国連安全保障理事会は今年6月に、準軍事組織である即応支援部隊（RSF）が、エルオベイドの包囲を強化していると報告し、「警鐘」を鳴らしていた。

「お告げの祈り」の後、教皇はロシアとウクライナの紛争にも言及し、両国で子どもを含む人々がいのちを落としていることを嘆いた。「戦争はさらなる戦争を引き起こし、苦しみをもたらすだけです。暴力の負の連鎖に終止符を打ち、外交と対話を優先させる時です。そうして平和への道を切り開く時なのです」



記事全文

教皇、西岸地区の暴力停止を訴え
国際社会に 二国家解決推進求める

【カステルガンドルフォ（イタリア）8月17日OSV】教皇レオ14世はヨルダン川西岸地区での暴力が増加している現状に警告を発し、世界の指導者たちに、イスラエルと共にパレスチナの国家としての独立を断固として押し進めるよう求めた。

教皇は滞在中のローマ南東にあるカステルガンドルフォの教皇宮殿で、8月16日に行われた「お告げの祈り」の後、こう訴えた。「西岸地区に住むパレスチナの市民に継続して行われている暴力をやめるよう改めて訴えます。さらに国際社会には公正で恒久的な平和の確立のために、二国家解決を押し進めるよう求めます」

この訴えは、イスラエルからの入植者による暴力行為が報告されている中で行われた。西岸地区の最後に残されたキリスト教徒の村、タイベでも暴力が起きている。ラテン典礼エルサレム総大司教のヒエルバッティスタ・ピッツァバッラ枢機卿は8月15日、タイベ村を訪れ、聖母被昇天の祭日のミサを司式し、カトリック教会はこの村を見捨てることはないと言った。



記事全文

教皇、レバノンのアウン大統領と面会
「3者枠組み合意」について協議

【バチカン8月21日OSV】教皇レオ14世は8月20日、レバノンのジョゼフ・アウン大統領と面会し、米国が支持し、仲介したレバノンとイスラエル間の国境合意の実施段階で、その取り組みが



こうちやく
膠着状態にあることに懸念を表した。アウン大統領は、教皇庁国務省長官パロリン枢機卿と同省外務局長のギャラガー大司教とも面会し、「米国とイスラエル、レバノンが調印した、レバノン南部の国境の安定化と公正で恒久的な平和の構築を目的とした『3者枠組み合意』」について協議した。



記事全文

2027年ワールドユースデー 韓国ソウルで 希望の大会に

【ローマ8月7日OSV】2027年ワールドユースデー（WYD）ソウル大会の準備が本格的に進んでいる。教皇レオ14世も世界各国からの青年たちと、韓国のソウルで時を共にする。主催者は計画も大詰めを迎えたと語る。教皇庁いのち・信徒・家庭省から代表団が7月に韓国を訪問し、準備状況を視察。本大会前に青年たちを受け入れる教区の司教たちと話し合いを持った。



記事全文

教皇、AIの監督を求める 共通善に奉仕するシステムへ 議員団に

【バチカン8月21日OSV】教皇レオ14世は8月21日、国際カトリック議員ネットワークの年次総会に出席したカトリック信者の議員たちに、人工知能（AI）が人間の尊厳を損なうことなく、共通善のために役立つものとなるよう、AIに対する監視を行うよう求めた。「世界が必要としているのは、知恵に照らされた人間の知能、愛によって方向づけられた技術革新です」と教皇は語った。



記事全文

教皇のサンマリノ共和国訪問 自由の重要性と促進を訴える

【バチカン8月22日CNS】教皇レオ14世は8月22日午前、世界で5番目に小さく、イタリア北東部に位置するサンマリノ共和国を訪れた。同国は総人口の91%以上がカトリック信者だが、公式な国教はなく、法律上も良心の自由と信仰の自由を保障している。同国の政府関係者、賓客、住民との集いで教皇のスピーチの焦点は、自由の重要性とその真の意味に置かれた。



記事全文

教皇、イタリア東部リミニを訪問 愛の文化で権力の文化に対抗する

【バチカン8月22日CNS】カトリック教会が持つ愛といつくしみの考え方と文化は、敵を生み出したり、人や国に「権力の文化」の中で、「再軍備」が必要だと信じ込ませたりする間違った考えに打ち勝たなければならない、と教皇レオ14世は述べた。教皇は8月22日、イタリア東部にある海岸沿いの町リミニで、「市民間の友情のためのミーティング」に参加し語った。



記事全文

宗教指導者らトランプ政権に抗議 エルサルバドルへのTPS失効に

【ワシントン（米国）8月25日OSV】何百人もの宗教指導者と団体は8月21日、米トランプ政権に、エルサルバドルに与えられている「一時保護資格」（TPS）が9月に失効することに対し、その延長を訴えた。TPSにより米国政府には、戦争や災害、社会不安などの状況にある国から逃れてきた、一定の基準を満たす移住者を強制送還から守る権限が与えられている。



記事全文

「この戦争を終わらせねば」バチカンの大司教、ロシア外相と会談

【モスクワ（ロシア）8月26日OSV】教皇庁国務省外務局長のポール・リチャード・ギャラガー大司教は、ロシアの政府高官らにウクライナとの戦争を終結し、国際社会の力を借りて交渉を始めるよう求めた。「紛争は軍事力では解決できません」。ギャラガー大司教は8月25日、モスクワでの記者会見にロシアのセルゲイ・ラブロフ外相と共に臨み、そう語った。



記事全文

教皇、モザイク画削除指示 バチカンニュースのサイトから

【パリ8月31日OSV】駐フランス教皇庁大使は8月31日、9月25日から予定されている教皇のフランス訪問中、性虐待をしたとされるマルコ・ルプニク神父が制作したモザイク画が飾られている大使館の聖堂で、教皇はミサを行わないと断言した。同時期に、同国のジャン・マルク・ミカ司教は、教皇がバチカンニュースに、ウェブサイトで使用しているルプニク神父のモザイク画を削除するよう命じたことをフランスの週刊誌に明かした。



記事全文

国内

関東大震災から103年 キリスト者追悼^{きとう}祈^{きとう}会
地震後の中国人虐殺事件 学ぶ

「関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者103年 キリスト者追悼^{きとう}祈^{きとう}会」が8月30日、東京都文京区の富坂キリスト教センターで開催された。NCC(日本キリスト教協議会)東アジアの和解と平和委員会(委員長・飯塚拓也牧師／日本基督教団)が呼びかけ、日本キリスト教会、日本カトリックいのち・平和・人権委員会など20余りの教会・団体の賛同によって、例年行われている集い。

今回はキリスト者の王^{ワン}希^{シー}天^{ティエン}(享年27)ら中国人が犠牲となった震災後の虐殺事件について学び、祈りを深めた。オンラインで集いを視聴した33人を含め、70人が参加した。

集いでは今まで朝鮮人の虐殺について学んできたが、今年は初めて中国人の虐殺に焦点を当てて学んだ。講師を務めたのは、「関東大震災下で虐殺された中国人労働者を追悼する会」共同代表の林^{リン}伯^{ボー}耀^{ヤウ}さん。林さんは在日中国人2世としての立場から、「王希天と関東大震災下の中国人虐殺事件」をテーマに話した。

林さんは、当時、中国人と日本人の間に憎しみが募っていた歴史的背景を説明。震災当時、日本にいた父親の体験を交えながら、震災後に虐殺された中国人留学生・王希天について話した。

王は敬けんなキリスト者。大震災前年の22年9月、現・東京都江東区大島^{おおしま}では、中国人労働者の排斥運動に強い危機感を抱いた王らの呼びかけで、中国人労働者の生活を守るための労働組合(中華民国僑日労働同胞共済会)が発足した。王は労働者に代わって未払い賃金の要求やピンハネの制限、労働条件の改善などを訴え、このために資本家や人夫頭、



講師の林伯耀さん

警察からも憎まれたという。そうした状況も背景に、大震災後の9月3日から4日にかけて、大島町とその近辺で400人以上の中国人労働者が虐殺された。王自身も陸軍の旅団司令部同意のもと、日本兵により斬殺。その後、警察は付近の住民に厳しいかん口令を敷き、



王希天

さらに山本権兵衛総理を含む5大臣は、震災2カ月後の11月7日、「王希天問題と大島町事件は徹底して隠蔽^{いんぺい}すること」を決定した。林さんは、日本政府が大震災下の朝鮮人・中国人虐殺事件について「資料がない」ことを理由に見解を表明せず、責任を回避し続けている現状を問題視する。こうした姿勢は「歴史の隠^{いん}ぺい」であり、勢いを増している民族排外主義の「見えない源泉」になっていると指摘した。



記事全文

沖縄軍事化への危機感訴える
具志堅^{たかまつ}隆松さんら記者会見

9月13日投開票の沖縄県知事選を前に、沖縄戦の遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松^{たかまつ}さんらが9月1日、東京都千代田区の日本外国特派員協会(FCCJ)で記者会見を行った。会見では、沖縄で進む軍事化への危機感を訴えるとともに、今回の知事選で問われているのは、沖縄の「自決権(自己決定権)」だと訴えた。

具志堅さんは自身が42年間、沖縄戦で亡くなった人の遺骨を探し続けてきた沖縄で、いま再び戦争を前提とした動きが進んでいることに強い危機感を持っていると、次のように話した。

今年、嘉手納^{かてな}基地の米軍要員が対イラン軍事作戦のために中東へ派遣された。「遠く離れた中東の戦争と沖縄の基地は決して無関係ではありません」

名護^{なご}市辺野古では米軍新基地建設が続き、先島^{さきしま}諸島では台湾有事

を念頭に、自衛隊のミサイル配備や日米共同訓練が進む。今年5月には石垣、宮古、与那国で地对艦ミサイルや装甲車の展開、無人偵察機の飛行を含む訓練が行われた。

また政府は有事の際に先島の島民と観光客を含む計12万人を九州各県と山口県へ約6日間で避難させる計画だが、受け入れ先の一つ熊本県は7月末の大地震で被災し、復興の途上にある。

そうした中で戦争になれば、避難者の受け入れはさらに難しくなる。住民からは、「本当に6日間で全員が避難できるのか」と疑問の声も上がっている。

具志堅さんは、「戦争が始まってから、12万人を逃がす方法を考えるのではなく、戦争を起こさないこと、沖縄の島々を戦場にしないこと」が行政の責任だと指摘した。

81年前の沖縄戦で24万人余り人命が失われ、その半数が県民だった。「そのために県民は戦争をさせないと声を上げている」のだと説明した。



具志堅隆松さん



記事全文

福島^{ふくしま}のNPO・若者・教会が共に研修
地球規模の危機に「新しい普遍的な連帯」模索



作業後、ネパール出身の学生からネパールの壮大な自然等の動画を見せてもらう参加者

日本のカトリック教会は「すべてのいのちを守るための月間」(9月1日～10月4日)に入った。福島で障害者支援を行っているNPOが9月5日と6日、多様な立場の人々を

招いて研修会を開き、前教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』が呼びかけている「新しい普遍的な連帯」について語り合った。

参加したのは、福島の若者、外国出身者、東北の復興を支えた官僚・学者のほか、国連の専門機関を含む団体関係者と、日本カトリッ

ク司教協議会「ラウダート・シ」部門の委員ら30人余り。参加者は気候変動や紛争など地球規模の課題に直面する中で、あらゆるいのちを守るための“新しい連帯”の必要性を確認し、一人一人が持つ願いや行動力の源泉について考えた。

この研修会を企画・開催したのは、東日本大震災をきっかけに発足し、震災や原発事故の影響を受けた障害者の雇用創出、就労支援に取り組んでいるNPO法人「しんせい」。「しんせい」は、地球規模で生じている生物多様性の損失を食い止めるための実践と学びの場として、「山の学校」という名で研修会を催してきた。今回の「山の学校」は、震災・原発事故から15年たった今、「東北の復興が目指したものは何だったのか?」という若者からの問いへの答えを、若者と対話をしながら探すことを目的に企画し、カリタスジャパンから資金援助を受けて開かれた。

カトリックの団体ではない同NPOが、研修会に回勅『ラウダート・シ』について考えるプログラムを盛り込んだのはなぜか。きっかけは、理事長の富永美保さん(64)が知人の勧めで『ラウダート・シ』を読んだことだ。



記事全文

国内

カリタスのとサポートセンター
能登南部豪雨 羽咋で支援を開始

名古屋教区(松浦悟郎司教)の「カリタスのとサポートセンター」(センター長・片岡義博神父<名古屋教区>)によれば、8月27日から石川県と富山県を襲った能登南部豪雨では教会施設に目立った被害はなかった。一方、サポートセンターがベース(ボランティア拠点)を置く羽咋教会(石川県羽咋市)周辺は浸水被害が多く、現在、羽咋での支援活動も行っている。

9月8日に金沢教会(金沢市)で開かれた同サポートセンター運営会議では、石川県輪島市・七尾市での活動と併せ、羽咋で始まった活動についても報告された。カリタスジャパンを通じ、7月末に発生した熊本地震被災地を支援している福岡教区の動きも共有した。

のとサポートセンター運営会議は、教会が被災地域に根差して活動していくために情報共有し、中長期的な方向性も含めて検討する場として3カ月に1度開催されている。参加するのは、松浦司教、片岡神父、教区の復興支援担当者、サポートセンタースタッフのほか、カリタスジャパンの担当者ら。

カリタスジャパン(CJ)は2024年の能登半島地震発生後、名古屋教区の初動対応を支援した。当時、司教団から被災地へ派遣されていた緊急対応支援チーム(E R S T / イーアールエスティー



羽咋市での支援活動(9月上旬)
© カリタスのとサポートセンター

現CJ-E R S T)のうち2人は今も運営会議に参加し、名古屋教区のフォローアップを続けている。現在、宿泊可能なサポートセンターのベースは、能登半島北端の輪島ベース(石川県輪島市)と、同中部の七尾ベース(同県七尾市)の2カ所。いずれも教会内の建物を使用している。

熊本地震に関しては、被害の大きかった八代市で八代教会の信徒有志がいち早く住民への支援物資配布を始めた。同教会は、2016年の震災時も教会を挙げて地域支援を行った共同体。

「熊本カトリック女性の会」も10年前と同様対応が早く、八代教会のサポートを行うほか、教会外でも独自に支援活動を進めている。



記事全文

ルワンダで延べ12000人を支援 ガテラさん、真美さん夫妻

アフリカ東部の国ルワンダで、30年にわたり障害のある人々を支えている夫妻がいる。夫はルワンダ人でカトリック信徒のガテラ・ルダシングワさん(71)で、妻は日本人の真美さん(63)。二人は、これまで延べ1万2000人のために義足などを製作し、無償で提供し続けてきた。

1994年、ルワンダでは歴史的な大虐殺が起き、3カ月間に80万人とも100万人以上とも言われる人々が殺害された。手足を



ルダシングワ真美さん(右)とガテラさん

失った人々のために二人が始めた義肢製作所は試練を経ながらも続き、現在、ルワンダの未来を築く子どもたちの支援も視野に、現地と日本の多くの人と共に歩み続けている。



記事全文

8月21日の死刑執行に抗議声明 いのち・平和・人権委員会

日本カトリックいのち・平和・人権委員会(委員長=森山信三司教)は、8月21日に大阪拘置所で高見素直さん(58)に死刑が執行されたことを受け、26日、内閣総理大臣と法務大臣に宛てた抗議声明を発表した。声明は、全てのいのちの尊厳と人権を守る立場から、死刑制度そのものに反対し、今回の執行に強く抗議している。また犯行については本人自身が「罪の重さに気づき、生涯をかけてその責任を」負わなければならないと指摘した。



記事全文

世界難民移住移動者の日 ポスター等公開



今年の世界難民移住移動者の日(9月27日)を迎えるに当たり、日本カトリックいのち・平和・人権委員会(委員長=森山信三司教/大分教区)がポスター=写真=とパンフレットを作成し、ウェブサイトに公開した。パンフレットには、教皇レオ14世のメッセージの邦訳全文と、森山司教の趣意書を掲載している。



記事全文

WYD ソウル大会 初の隣国開催へ 説明会に200人超参加

2027年夏に韓国で開かれるワールドユースデー(WYD)ソウル大会の説明会が8月29日、オンラインで行われ、大会参加を希望・検討する青年や協力者など200人以上が参加した。Zoomでの開催ながら質問も活発で、初めて隣国で開かれる大会に向けて、準備の一步を踏み出した。大会テーマは「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ16・33)。



この説明会では、韓国出身の司祭が同国の教会の歴史について話したほか、過去の大会参加者の話や動画などを通して、ワールドユースデーの歴史や参加経験などが伝えられた。参加方法などの伝達も行われた。主催は、日本カトリック司教協議会の青少年司牧部門。

ワールドユースデーは来年7月29日から8月8日まで。前半5日間(「教区での日々」)は、参加者が韓国の15教区の信徒の家庭でホームステイなどをして交流。後半6日間の「本大会」では、青年たちは言語別の会場で司教たちからカテケージス(信仰教育)を受け、最終日に教皇レオ14世のミサにあずかる。



記事全文

2025年教会現勢 信者数は40万9070人 減少傾向続く

カトリック中央協議会は2025年の日本のカトリック教会に関する統計(教会現勢)をウェブサイトで公開した。それによれば日本の信者数(信徒、聖職者、修道者、神学生の合計)は40万9070人。20年前の2005年は45万2800人、10年前の2015年は44万3721人で、減少傾向が続いている。主日ミサの参加者数は、2021年にコロナ禍で5万9352人となったが、昨年は7万8649人にまで回復した。



記事全文

全国の巡礼地をウェブサイトで紹介 列聖推進委員会

日本カトリック司教協議会の列聖推進委員会は8月12日、カトリック中央協議会のウェブサイトに「全国カトリック巡礼地(2026年版)」を公開した。

北は北海道、南は沖縄まで79カ所の巡礼地を紹介。殉教者の信仰の証しを伝える地、聖母への祈りがささげられてきた地、教会の歴史と歩みを刻む地など、それぞれの説明や巡礼の手がかりを記した。Google mapでも表示できるようになっている。



記事全文

2023～26年叙階の司祭・助祭・終身助祭

2023年から26年までの間に叙階された司祭・助祭・終身助祭を、数回に分けて紹介する。①洗礼名・名前②叙階時の年齢③叙階年月日④叙階場所⑤現在の活動⑥受階者のメッセージ

◆司祭

【東京教区】

①アシジのフランシスコ 熊坂直樹②46歳③2023年3月21日④東京カテドラル関口教会（東京・文京区）
⑤高幡教会と豊田教会（いずれも東京都日野市）の司牧を兼任⑥出会う人々とみことばを分かち合うために、主に二つのことを心がけています。一つは、さまざまな背景の方々とお話しするに当たり、共通の対話の土台を探すことです。昔のラジオのチューニングのように、相手と通じるチャンネルをいつも探しています。もう一つは、自分も相手から影響を受けて変わる気を持つことです。年を重ねるごとに変わりにくくもなっていますが、少なくともその気であることで、実りある対話になるように願っています。



【横浜教区】

①ルカ 枇杷晃平②31歳③2025年3月20日④保土ヶ谷教会（横浜市）⑤雪ノ下教会、由比ガ浜教会（いずれも神奈川県鎌倉市）助任⑥横浜教区司祭の枇杷と申します。司祭としてはや2年目を迎え、小教区での宣教・司牧活動をはじめ、さまざまなことに携わらせていただいております。その中で出会う方お一人お一人のために、信仰を分かち合い、ともに祈り、神様の愛を証しするキリスト者として、司祭としての生き方をこれからも続けてまいりたいと思っております。皆様の引き続いてのお祈りを何とぞよろしくお願い申し上げます。



【大分教区】

①ミカエル 山頭牧夫②41歳③2025年3月20日④大分カテドラル大分教会（大分市）⑤宮崎教会助任⑥心がけていることは、目の前の信者さんを大事にすることです。司祭が忙しそうにしてしまう時に、信者さんは声をかけづらくなります。教区司祭として働く以上は、支えてくださる教区の皆さまに向き合い続ける所存です。そして先輩の言葉の受け売りですが、ミサに慣れてしまわないことです。ミサ中に、イエス様の必死さ、



懸命さにいつも触れることができますように。イエス様、あなたにしがみついて、歩いていくことができますように。

【聖アウグスチノ修道会】

①マキシミリアノ・マリア・コルベ 桑原篤史②37歳③2023年5月27日④福岡カテドラル大名町教会⑤笹丘教会・助任（福岡市）、福岡教区青少年委員会・委員長⑥司祭叙階のお恵みを頂き、はや3年がたちました。今でも、叙階式のことを思い出すと魂が震える思いがするほど、大きなお恵みでした。宣教司牧は多岐にわたります。子どもから青年、年配の方々、また小教区、学校や福祉関係などさまざまな場所で福音を宣べ伝えなければなりません。それは、同じ方法では通じない時があります。その場所、その人の「今必要としていること」に注意深く耳を傾けながら、「その場所、その時、その人」に必要な司牧ができるよう祈り、識別しながら、神様に信頼して歩んでいます。



【聖パウロ修道会】

①レオ 大西徳明②42歳③2023年3月21日④東京カテドラル関口教会（東京・文京区）⑤現在、3年間の院外居住で、那覇教区のコザ教会で司牧のお手伝いをしています。⑥聖パウロ修道会の一員として、福音を伝える使命を大切にしています。説教や講座、さまざまなメディアを通して、聖書の言葉が一人でも多くの方の心に届くよう努めています。小教区での司牧を通して地域の方々とともに歩みながら、これからも福音の喜びを伝えていきたいと思ひます。



【ドミニコ会(ロザリオ管区)】

①ルカ ジョン・ソックン②39歳③2024年6月9日④松山教会（松山市）叙階場所⑤箱崎教会主任司祭。（ドミニコ修道会の信徒会・ロザリオ信心会の担当司祭）福岡地区青年担当司祭。⑥司祭として心がけているのは「どうすれば、より多くの方々、特に若者が、教会に来るのか」ということです。私は福岡地区の青年担当司祭を務めているので、宗教の必要性さえ感じない若者たち



③

にどう接すれば良いのか、どうすれば彼らが教会に来て神様に関心を持つのか、いろいろ悩みながら試行錯誤しています。しかし、それが単に彼らの興味を引くためのイベント的な集まりではなく、その中で神様のメッセージを伝えられるように心がけています。

【聖心布教会】

①パウロ 根田健二②51歳③2024年2月9日④聖心の聖母教会（オーストラリア・シドニー・ランドウィック）⑤司牧小教区は未定⑥43年ぶりに日本の生活に戻り、学ぶべきことはたくさんあります。司牧活動の中心として信徒の皆様と共に歩み、イエスの聖心が世界の至るところで愛されるよう心がけて頑張ります。よろしくお願いします。
①パウロ レ・ディン・ヴィン・トアン②42歳③2024年5月25日④城北橋教会（名古屋市）⑤福井教会（福井市）助任⑥私は、叙階式の説教で松浦悟郎司教様がお話くださった「レゴ（ブロック）のピース」の例えを、いつも心に留めています。1枚の美しいレゴの絵は、それぞれのピースが正しい場所に置かれることによって完成します。同じように、神様が世界と教会のために描いておられる大きな計画も、一人一人が神様に自分を委ね、望まれる場所に置いていただくことによって形づくられていきます。そのためには、内的な自由と責任感が必要です。神様のみこころを求め、「みこころが行われますように」と祈りながら、神様が望まれる場所へと導かれるままに歩いていきたいと思っています。



①フランシスクス デヴィッド・アブラム②31歳③2025年6月30日④ビネレン神学校（インドネシア・マナド教区）⑤各務原教会（岐阜県各務原市）⑥私にとって司祭になることは大きな恵みです。その恵みを頂いた時、自分の弱さを感じ、ふさわしくないと感じました。多くの方々から祝福をお願いされた時、その思いは強くなりました。しかしその後、ミサをささげ、ゆるしの秘跡や病者の塗油を受け、人々を祝福する中で、司祭として奉仕できる恵みを改めて感じました。その経験を通して、感謝のうちに司祭としての自分を受け入れることができました。私は今も弱さのある一人の人間です。しかし、私を呼び、選ばれた神様が、これからも歩みを支えてくださると信じています。



回勅 人間の偉大さ AIの時代における人格の擁護

要約 第3回

5月25日に発表された教皇レオ14世の初の回勅「マニフィカ・ウマニタス」(人間の偉大さ—AIの時代における人格の擁護)各章の要約を、5回にわたって紹介します。要約の原文と図版は、バチカンの総合的人間開発省が公開したものをカトリックジャパンニュースが訳したものです。回勅の公式訳は9月30日、カトリック中央協議会から書籍として発売されます。

述べ、弱さや脆さ^{もろ}のうちに、他者との関係性や思いやり、そして互いに開かれた心が育まれる場所があるとの理解を示しています。(第4章は次号掲載予定)

第3章

技術と支配

AIが約束するものに直面する人間の尊厳

第3章の中心になっているのは、技術と権力と人間の間の関係の分析です。これは、人工知能(AI)が約束するものを、より広い文化変容の文脈の中に位置づけ、進歩の意味自体を問い直すことを目指しています。技術の発展は、人間の創造性の表れと見なされますが、しかし、それが唯一の判断基準になってしまうリスクに対して、回勅は注意を促します。それは、現実を測定可能、計算可能、最適化可能なものに還元するような考え方、すなわち「技術主義的なパラダイム(考え方の枠組み)」と呼ぶものになりかねないと、警告するのです。

このような展開の中で、人工知能(AI)は、私たちに現実的な利益をもたらす強力な道具となりますが、同時に、それが倫理や人間理解に関する検討を踏まえた方向づけから切り離されたときには、支配のための手段になってしまいます。

回勅は、技術の力の増大が自動的に善と一致するわけではないと警告し、「より強力であることは必ずしもより良いことを意味しない」と言います。物事を判断する決定的な基準は、人間の尊厳であって、手段の効率性ではないのです。

第3章は、人間の知能と人工知能(AI)の根本的な違いを明らかにしていきます。AIシステムは、一定の言語や行動を模倣することはできても、真の人間的な経験には至りません。「人工知能は、人生を経験せず、身体を持たず、喜びや痛みを体験せず、愛、仕事、責任といったものが何を意味するかを内面から理解することはありません」。従って、人工知能は、道徳的責任を負うことも、それを駆使して下される決定の究極的な意味を理解することもできないのです。

このリスクが特に深刻になるのは、人工知能が人々の生活や評判、また自身にとっての好機や権利に対して直接、影響を及ぼす意思決定に関わるときです。そのような場合、人工知能のアルゴリズム(処理手順)が持つ一見中立的な性質が、避けがたい排

除を生み出してしまうことがあります。「あることに対して誰がふさわしく、誰がふさわしくないかを全面的にアルゴリズムに任せることは、人間の可能性に対して境界線を引き直すことになり」、その結果、政治的責任や道徳的な責任意識を失うことになりかねないと、回勅は警告しています。

回勅は、進歩を人間の限界を克服することと考える人々の言説(「トランスヒューマニズム」や「ポストヒューマニズム」)にかなりの注意を払っています。それらに対して、限界は取り除かれるべき欠点ではなく、人間を人間たらしめるものだという見方を示します。「人間は限界があるにもかかわらず成長するのではなく、しばしば限界を通して成長するのです」とはっきり

教皇レオ14世
最初の回勅



MAGNIFICA HUMANITAS
回勅 人間の偉大さ
AIの時代における人格の擁護

3/5
第3章

AIがもたらす期待を前にしてなお変わらない、人間の偉大さ

テクノクラティック
技術主義パラダイムのリスク

- ・効率性 → △ 唯一の判断基準になる
- ・利益 → △ 意思決定を左右する
- ・AI → △ 問題を加速させる
- ・人間 → △ 業績だけで測られる



AIのリスク

- スピード優先
批判的思考の希薄化
- 見せかけの客観性
偏りが見えなくなる
- 疑似的な人間関係
幻想にすぎない
- 権力の集中
すべてが一部の少数の者の手に



「AIを武装解除することは、テクノロジーを放棄することではなく、テクノロジーが人間を支配するようになるのを防ぐことです」MH 110

人工知能 (AI)

できる

できない

- ・データ処理する
- ・パターン認識する
- ・高速かつ高性能に処理する

- △ 意識を有さない
- △ 愛さない、苦しめない
- △ 責任を取らない



知能を模倣するが、人間らしさはない

人間性にかなうAIにするための規準

- 人間の尊厳
- 共通善
- 社会正義
- 信頼性
- 透明性

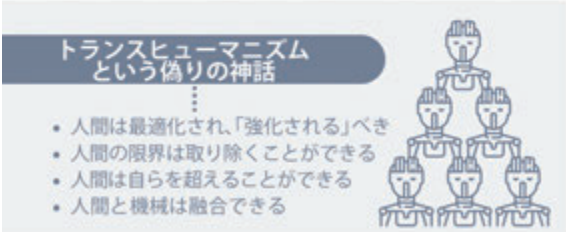
AIは、中立ではなく、そこには価値観や選択が反映されている



「文明の質は、その力によってではなく、ケアする姿によって測られます」MH 114

トランスヒューマニズム
という偽りの神話

- ・人間は最適化され、「強化される」べき
- ・人間の限界は取り除くことができる
- ・人間は自らを超えることができる
- ・人間と機械は融合できる



トランスヒューマニズム
という偽りの神話

- 人間は最適化され、「強化される」べき
- 人間の限界は取り除くことができる
- 人間は自らを超えることができる
- 人間と機械は融合できる



「アルゴリズムにとってエラーは修正すべきものですが、人間にとってそれは、深い変容のきっかけとなりえるのです」MH 128

本来の人間存在

- ・関係性
- ・もろさ
- ・ケア
- ・愛

限界は、欠点ではない
それは、わたしたちを人間たらしめるもの



本来の人間存在

- 関係性
- もろさ
- ケア
- 愛

限界は、欠点ではない
それは、わたしたちを人間たらしめるもの

AIは、暮らしを、より効率的なものにするためではなく、より人間らしいものとするために用いられるべきです。



DICASTERY FOR PROMOTING
INTEGRAL
HUMAN
DEVELOPMENT
www.humandevelopment.va
Provisional Japanese Translation © Catholic Bishops' Conference of Japan

主日の福音解説

10月4日(年間第27主日)

マタイ 21・33－43

隅の親石

今日朗読される福音は、「救済史の要約」と呼ばれることがある。繰り返し遣わされる僕たちは旧約の預言者たちを、最後に遣わされる息子は神のひとり子イエス・キリストを想起させるからである。マタイは「(農夫たちが)息子を捕まえ、ぶどう園の外に放り出して殺してしまった」と記す。もし仮に、今日の箇所がここで終わっていたなら、神の愛も忍耐も踏みにじられ、物語は人間の罪によって閉ざされたように見えたであろう。

ところが、福音記者は「息子」の死を語った後に、詩編の言葉を引用する。「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった」(詩118・22)。この引用によって物語の焦点は、人間が何をしたかということから、その後、神が何をなさったかということへと移っていく。農夫たちの最後の行為は「殺した」である。しかし神の最後の言葉は「隅の親石とした」なのである。

ここに復活の光を見いだすことができる。十字架は、人間が神のひとり子を退けた場所である。しかし、神はその拒絶を救いの終わりとはなさらなかった。捨てられたひとり子を救いの要とし、死の場所から新しい命を始められた。救いの歴史とは、人間が一度も失敗しなかった歴史ではない。人間の不忠実にもかかわらず、神がご自分の約束をたがえず、救いの働きをやめなかった歴史である。その同じ神の忠実な、今も一人一人の歴史の中で働いている。

これこそがキリスト的希望の根拠だと言えよう。人生には、自分の過ちによって壊れてしまった関係もあれば、どれほど祈っても思うようにならない出来事もある。努力する力さえ失い、自分の歩みには何も残っていないように感じる時もある。しかし、我々が終わりだと判断する場所が、神にとっても終わりであるとは限らない。神は、捨てられた石を拾い上げ、そこから新しいものを築くことのできるお方である。



もちろん、これは失ったものが全て以前と同じ形で戻るという意味ではない。傷がなかったことになるわけでもない。しかし、傷を抱えたままであっても、人は神と共に新しい歩み始めることができる。そこで求められる「実」とは、自分の力で立派な成果を示すことではない。「隅の親石」であるキリストに結ばれ、今日置かれた場所で、誰かを救^{ゆる}い、支え、時には待つという小さな行為を積み重ねることである。

だから、我々は過去の失敗を人生最後の言葉にしなくてよい。最後の言葉を語るのは神だからである。人が捨てた石を救いの礎とされた主は、今も、失われたように見える場所から新しい命を生み出してくださる。その神の御手に自分を委ねて生きる場所から、新しい「実」は静かに育っていくのである。

(熊川幸徳神父／サン・スルピス司祭会)

10月11日(年間第28主日)

マタイ 22・1－14 または 22・1－10

私たちが招かれている宴会

今日のたとえ話で、ある王は自分の息子の婚宴に人々を招きました。ところが、その招かれた人々は誰もこの婚宴に来ていません。ある人は商売に、ある人は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺すことまでしました。なぜそうしたのでしょ^うか。彼らはこの王に反対する心を持っていたからです。王に招かれてはいるものの、実はその王を王として認めず、反対しているのです。

このような彼らの心が表れると、王は非常に怒り、彼らを皆滅ぼしました。しかし、だからといって息子の婚宴を開かずにはいられませんでした。だから王は誰でも婚宴に連れて来るように家来たちを送りました。すると、王子の婚宴だということでき^さんの人々が集まってきました。こうして人々が増えたので、婚宴の雰囲気も盛り上がっていきま^した。ところが、この中にも追い出される人々がいました。彼らは自分たちが招かれている場所が婚宴であることが分かっていたのに準備していなかった人々です。



では、このたとえ話の中で天の国は何でしょう。ざっと見れば、婚宴が天の国ではないかと思われま^すが、イエス様はこのたとえ話の最初にはっきりとこう言われました。「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている」と。つまり、天の国は婚宴ではなく、婚宴を催す王や王の行為にたとえられるのです。では、婚宴は何を意味するのでしょうか。ここで婚宴は、私たちが今属している教会を意味します。この教会の中には悪人も、善人もいます。そして全ての人が教会に招かれています^が、ふさわしい準備をしない人々は王に歓迎されないのです。

この宴会については、今日の第一朗読でイザヤが既に預言しています。ところが、イエス様がこれを婚宴にたとえられた理由は、婚宴とは、異なる一人の男と女が結ばれることを祝うための宴会だからです。言い換えれば、この宴会は異なる人間と神とが結ばれること、すなわち救いを喜び祝う宴会であるということです。それでこの宴会に参加する人々は不足を感じることがありません。使徒パウロは今日の第二朗読でその理由をこう説いています。「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださいます」と。

毎日のミサの中で、司祭は聖体拝領の前にこう宣言します。「神の小羊の食卓に招かれた人は幸い」。まさしく、この宴会に招かれている私たちは幸いです。その幸いな姿にふさわしい生活をしていくことができるように、常に主の招きに応える準備を整えることに致しましょう。

(ダニエル・キム・ドンウク〈金桐旭〉神父／韓国殉教福者聖職修道会)

主日の福音解説

10月18日(年間第29主日)

マタイ 22・15－21

世界宣教の日

神様のものを神様に返す

悪い敵がイエス様をわなにかけようとしたましたが、イエス様は見事に敵のわなを見破りギャフンと言わせました。人間の悪知恵は神様にはかないません。めでたし、めでたし、一件落着です。一時代前の漫画のとんち問答のようなお話。今日の福音は「神様のものを神様に返しなさい」が大切です。

わたしたちは、うれしいとき、成功したとき、問題が解決したとき、合格したとき、いい出会いがあったとき、感謝されたとき、好きになられたとき、人に必要とされたときなど。よろこんで「神様ありがとう」と感謝を返すことができます。



逆に、失敗したとき、問題が解決できないとき、人に迷惑をかけてしまったとき、嫌われてしまったとき、期待されないとき、自分は必要ない存在と感じたとき、人を嫌いになったり、誰かに意地悪をし、傷つけてしまったりしたとき。神様に何かを返すどころか、「自分はもうゆるしていただけないんだ」と苦しくなります。ファリサイ派の人々も自分たちがやっていることを見つめ直したとき、こんなことを神様にお返しできるのかと、恥じ入ってしまったのでは…。

また病気になったり、帰るところがなくなったり、大切な人を失ったとき…。そんなとき、神様に何をお返しすることができるのでしょうか？ イエス様が教えられていることは「神様のものは…」です。この神様のものとはいったい何でしょうか？ 自分の全てを、自信を持って神様にお返しすることは、なかなかできないことです。

何をお返しできるのかと悩んだとき、手を合わせて、上を見上げると、十字架につけられ苦しんでいるイエス様がおられます。馬鹿にされて、傷つけられて、仲間たちは逃げ出し、必要とされずに、最後にいのちまで奪われてしまいます。十字架は人間の目から見れば、失敗と敗北、あきらめのしるしです。しかし、イエス様は逃げなかった、絶対に…。

自分をあきらめてしまったとき、十字架のイエス様が離れることなく、一緒にいてくださっています。一人でできないことはたくさんあります。優しい声が聞こえなくなってしまうこともあります。そんなわたしたちとずっと一緒に…。十字架上のイエス様を見てください。それが、わたしたちが神様にお返しできる全てです。どうしても勇気が出ないときは、マリア様のお顔を見てからイエス様を見上げてください。

(寺浜亮司神父／福岡教区)

10月25日(年間第30主日)

マタイ 22・34－40

神と隣人への愛

律法の専門家の質問に答えるイエスは^{おきて}掟の根本精神を、また掟に込められている神の心を明らかにしようとしたというのが、本日のマタイ福音書の内容です。

イエスに対して律法の専門家から質問が出されます。「律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか」。この質問はイエスを試すためであったと述べられています。イエスがどの掟を重要だと考えているのか、答えのいかんによってはイエスの評判を落とすことも、卑しめることもできます。当時は全ての掟が大切だと考えられていましたので、一つの掟だけを答えるならば、ほかの掟を軽んじていると訴え出ることができます。またイエスが答えた掟に照らし合わせてイエスの生き方を非難することもできます。そのように律法の専門家の質問は悪意に満ちたものだったのです。

質問に対してイエスは「(律法の中で最も重要なのは)神を愛すること(申命記6・4－5参照)と隣人を愛すること(レビ記19・18参照)だ」と答えます。「最も重要か」というのが質問の主旨ですから答えは一つのはずです。ところが、イエスは二つの答えをしています。それはこの二つの掟が切り離すことのできないものだからです。神を愛することは隣人を愛することであり、隣人を愛することは神を愛することです。神を愛することなしに隣人を愛することはできませんし、隣人を愛することなしに神を愛することもできません(一ヨハネ4・20－21参照)。そのようにこの二つの掟は百円玉の表と裏のようなものなのです。



代表的な掟であるモーセの十戒の内容からも明らかにように、神と人との関係、人と人との関係がうまくいくようにということで掟は定められました(出エジプト記20・1－17参照)。ですから掟の根本精神、掟に込められた神の心は「神を大切にすることと隣人を大切にすること」なのです。ところが、掟の一つ一つを厳密に守るということにこだわるあまり掟の根本精神は忘れ去られ、掟に込められた神の心は無視され、ただ掟を守ることだけが強調されていくようになります。そのような中で、神の真の姿も曇らされていたのでした。イエスは掟の根本精神、掟に込められた神の心を悟らせようとしたのです。掟の数はたくさんあるけれども(旧約聖書に文字として書かれてあるものだけでも613あるそうです)、突き詰めていくとただ一つのことに集約されるとイエスは教えます。

それこそが、神と隣人への愛です。

(立花昌和神父／東京教区 カットは全て高崎紀子)

文化

企画展示「長崎の聖母マリア」
長崎 大浦天主堂キリシタン博物館

長崎市の大浦天主堂キリシタン博物館（大浦天主堂敷地内）で、「聖母マリア」に焦点を当てた企画展示が行われている。展示では、キリスト教布教(宣教)期、禁教期、再布教期、そして現在に至るまでと時代を分けてそれぞれの聖母の姿を紹介する。主な資料の一つが大判木版画「ド・ロ版画」の聖母子。長崎の伊王島にあった旧大明寺教会堂に設置されていた。聖母子の周囲には「天主のおんははなるさんたまりや われらのためにねがひたまへ」と手書きの文字が書き加えられている。他にもマリア観音像や、キリシタン暦などを展示し、長崎各地の聖母像を紹介する映像も公開中。

10月7日まで。



大判木版画「ド・ロ版画」の聖母子(大浦天主堂キリシタン博物館提供)



記事全文



毎月5日まで(必着)、はがきに3首以内。1人1枚を厳守。氏名に振り仮名を明記。送り先は、本紙1面に記載。下記QRコードからオンライン投稿も可。



蘇る主の御姿ありありと聖堂飾るステンドグラス

名古屋 富井 弘光

【評】ステンドグラスに日が差すと描かれた絵がにわかに生気を運び、くっきり表れます。作品からは、復活のキリストの御姿が鮮やかに浮かび、光の作用に作者の息の弾みまで伝わってくるようです。

地の底をはるか駆け来て正体をドスンと示す如きぞ余震は
小名木川のほとりに住みたるわれならば時空を超えて波郷とも話す

熊本 村田 弘子

傘差すも日に灼けし肌胸もとにメダイの銀のひかり残れり

東京 藤木倭文枝

長靴も混じり明日の行く方へ仲よく揃ふほら家族なり

ソフィア 野手美和子

幼子の来たる夕餉は声みちてあまねく荒野を照らす月影

三鷹 関 静男

猛暑日に初めて行ったがんサロンで冬の星座のやうにつながる

川崎 印出美由紀

梅雨晴れの平標山の山頂にエゾハルゼミの喝采を浴ぶ

横浜 西前 敦子

ネコのごと両手揃えるポーズから子は賃上げの揉み手始める

東京 稲山 博司

推し活はイエス様ヨと公言し週いちライブのミサにあずかる

東京 齊藤 美恵

俳句

稲畑廣太郎選

毎月5日まで(必着)、はがきに5句以内。氏名に振り仮名を明記。送り先は本紙1面に記載。下記QRコードからオンライン投稿も可。



◎ポケットの小銭ならしてゆく夜店

秋田 畑山真理子

【評】嬉々として夜店へ向う子が明るく描けた

東京 茅原 健

◎ラテン語の聖歌涼しくミサ終へる

東京 茅原 健

【評】伝統的なミサの気品を涼しく感じる作者

日野 弘子

八月や廊下の奥に十字切る

東京 草間をり絵

波音の遙か彼方や夏帽子

長崎 川端 一範

壮麗に母の日の母美しき

横浜 進藤 剛至

天上の師へまた問ひぬ夜の秋

神戸 内田 泰代

わが街に聳ゆ六甲山開

草加 長谷部 禎子

梅雨晴や初聖体の子の笑顔

大阪 酒井 湧水

片隅にふと目をやれば岩煙草

長崎 荒井 慎一

夏霞金毘羅山は姿消し

浦安 篠塚 歴山

極暑なる聖堂前の池静か

東京 山口 岳人

玉砕の島への慰霊夏の海

川崎 吉田 千津子

時計台十時十分風薫る

神戸 平尾 孝子

蝉時雨一樹さながら森となる

芦屋 高尾 淑子

母偲びガラスの瓶に矢車草

福岡 木本 敬子

手を振って入り日見送る夏の海

春日井 遠藤 晶子

蟻の列我が家へ入る遠慮なさ

選者 吟

司祭館今日も閉ざされ木槿垣

神の“在り方”を問い続け…

宮本久雄神父 著作選集(全3巻)を完結

今年2月に著作選集全3巻（日本キリスト教団出版局）の刊行が完結した、神学者の宮本久雄神父（ドミニコ会）＝写真。81歳という高齢ながら、現在も渋谷教会(渋谷区)の主任司祭および東京純心大学の教授として活躍している。東京大学教養学部、上智大学神学部で教え、聖書・哲学・神学の諸分野をまたぐ思索と気さくな人柄で、多くの学生たちに影響を与えてきた。選集は、第1巻「聖書 旅する神のダーバール（言即事）と共に」、第2巻「キリスト教思想 愛とケノーシスの間にて」、第3巻「エヒエロギア 自らを超えゆく神の探究」と、長年取り組んできたテーマを三つに大別して表現しており、宮本神父が築き上げてきた神学思想の集大成となっている。



記事全文

きょうをささげる(教皇による祈りの世界ネットワーク)10月

【教皇の意向：心の健康についての司牧】

すべての教会で心の健康についての司牧が確立され、心の病から生じる偏見や差別を克服する助けとなりますように。

【日本の教会の意向：宣教】

宣教の実りを願って祈ります。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」（マルコ16・15）と言われたイエスのことばに従い、私たちが生活の中で福音の喜びを証しすることができますように。

現代社会では、うつや不安、孤独、生きづらさなど、心の苦しみを抱える人が少なくありません。しかし、心の病は外から

は見えにくいから、「本人の心が弱いから」「もっと頑張れば」と誤解されたり、周囲の偏見を恐れ、一人で抱え込むこともあります。教会は医療機関ではなく、信徒が専門家に代わることはできません。しかし、教会だからこそできることがあります。苦しむ人を裁かず、その声に耳を傾け、「あなたは大切な存在です」と伝え、寄り添うことです。イエスは、病む人、傷ついた人、社会から遠ざけられた人に近づかれました。教会共同体も、心の苦しみを安心して語ることができ、必要な専門的支援へとつなぎながら、温かな交わりによって希望を生む場所となるよう祈りましょう。

*

イエスがおっしゃった「全世界に行って」の「全世界」には、私たちの家庭や学校、職場、地域社会も含まれます。福音を伝えるというのは、教えを語ることだけではありません。苦しんでいる人に寄り添い、人を赦し、互いの違いを尊重し、希望を失った人のそばにいて。そのような日々の小さな愛の行いを通して「神はあなたを愛しておられる」という福音を伝えることができます。そのためには、まず私たち自身がキリストと出会い、その愛に生かされた喜びが自然に周りにあふれ出ることです。私たち一人一人が置かれた場所で福音の喜びを生き、証しすることができるよう祈りましょう。

訃報

吉田有子（ゆうこ）修道女（大阪聖ヨゼフ宣教修道女会）7月11日、大阪府箕面市内の病院で老衰のため逝去。86歳。1939年東京都生まれ。58年同会入会。61年初誓願。百合学院小学校で教師として働いた後、86年からフィリピン・マニラの住民による相互扶助組織「アライカプア」の人々が編んだタオルや小物を、北は北海道から南は沖縄まで多くの学校・教会・施設に出向いて紹介した。訪問先で、当時「スモーキーマウンテン」と呼ばれたスラムの様子、信仰に基づいたアライカプアの共同体生活を「フィリピン・ボランティアの有子さん」として紹介し、環境問題、貧困問題の実態を情熱的に伝えた。また、滞日外国人のために、役所の手続きや病院の付き添い、学校の保護者会にも寄り添い、時間を惜しみなく提供した。言葉を越えたコミュニケーションで弱い立場に置かれた人々に奉仕した生涯だった。

グーセンス・ロベルト神父（淳心会）8月15日、兵庫県姫路市内の介護老人保健施設で老衰のため逝去。97歳。1928年ベルギー・シント＝アンテリンクス生まれ。54年司祭叙階。55年来日。56年から小神学校（長崎）で、59年からは淳心



学院でも教えた（兵庫）。60年神学校校長（当時の大阪教区）。66年姫路助任。（兵庫）。70年堺助任。73年平和の園（保育園）園長ならびに泉北責任司祭。82年堺教会宣教使牧チーム・メンバー。88年金剛主任（以上大阪）。92年から同会の新たな宣教地としてモンゴルへの赴任を任命され、モンゴルでの宣教の先駆者となった。10年間のモンゴルでの宣教後、帰国し、2002年から真生会館（東京）で指導。05年金剛、堺ブロック協力司祭（大阪）。14年、兵庫県姫路市へ静養のため移った。

クスマノ・ジェリー神父（イエズス会）8月18日、進行性前立腺がんのため逝去。81歳。1945年米国・セントルイス生まれ。63年同会入会。67年来日。76年司祭叙階。97年に日本国籍を取得した。79～81年ならびに87～90年に米国・アリゾナ州立大学で心理学を学び博士号を取得した。82～86年まで栄光学園（神奈川）でカウンセラーを務め、倫理と英語を教えた。91～2015年まで上智大学で心理学を教えながら、09年まで同大学カウンセリングセンター所長、カトリック指導部長、心理学科長などを歴任。02～08年まで紀尾井町修道院（SJハウス）院長（以上東京）、10～26年ま



で学校法人カリタス学園（神奈川）理事、14～20年まで同会上石神井修道院院長などを務めた。20～25年まで同会神学院で日本語学生の指導、25年からは麴町（聖イグナチオ）教会で司牧活動をしていたが、体調を崩し、26年6月から上石神井のロヨラハウスで療養していた（以上東京）。晩年まで禅の修行に励み、キリスト者として禅を取り入れた祈りを多くのの人々と共に分かち合った。温厚な人柄で、いつもユーモア豊かに周りの人々を和ませていた。

小島栄神父（長崎教区）8月29日、長崎市内の病院で逝去。88歳。1937年長崎県生まれ。64年司祭叙階。同年稻佐助任。66年長崎公教神学校（現・長崎カトリック神学院）。70年中町助任。71年宝亀主任。74年浦上助任。77年1月桐助任。同年5月同主任。83年長崎公教神学校校長。92年米国研修。93年浅子主任。2001年田平（たびら）主任。05年福江主任。09年浦上主任。15年4月に引退し、大司教館で暮らしていた（以上長崎）。深い愛情と的確な指導をもって小教区司牧や神学生養成に携わり、多くの司祭や信徒に愛され慕われた、人間味あふれる司祭だった。司牧の現場では大人の信徒や子どもたちとも親しく交わり、優しさで厳しさをもって人々を導いた。また、長崎公教神学校では



9年間にわたって校長を務め、規律を重んじながらも神学生を温かく育み、現在の長崎教区司祭の3分の1以上の養成に関わった。引退後も優しさとユーモアをもって周りの人々へ心を配り、「司祭のあるべき姿」を示すような存在だった。

川上カズヨ修道女（純心聖母会）9月2日、心不全のため逝去。98歳。1928年長崎県生まれ。46年に長崎純心高等女学校に編入し、学生修道志願者となった。戦後の貧しさの中でも神の豊かさに触れ、志願者同志の召命を育て合い、恵みの時を過ごした。疎開地の太田から復興の途上にある長崎への移動には大変な苦労があったが、この志願者たちの一致の力は、同会の大きな慰め、勇気となった。54年初誓願。63年終生誓願。初誓願後、長崎、鹿児島純心学園で家庭科の教諭として教職の道を歩んだ。特に鹿児島純心女子短期大学での28年間は、いくつもの役職をこなしながら、精いっぱい学生たちにキリストを伝え、全ての任務を全力で果たしていた。2021年4月から療養のため、長崎のロザリオの聖母修道院に異動した。話をすることが大好きで、甲高い声が特徴だった。今年4月に入院し、5月には介護老人施設に入居。8月の終わりに容態が悪化し、9月2日、静かに御父のみもとに召された。



告知板

■東京

▶連続セミナー「環境と貧しい人々」 教皇レオ14世の使徒的勧告『わたしはあなたを愛している』を中心に、講話と分かち合い。①10月7日（水）「いくつかの欠くことのできないことば（第1章）」。講師＝梶山義夫神父（イエズス会社会司牧センター所長）。②10月21日（水）「貧しい人々のための教会（第3章）」。講師＝山中大樹神父（東京カトリック神学研究所教授）。時間と会場はいずれも午後6時30分～8時、麴町教会ヨセフホール。無料。電話03-5215-1844、office@jesuitsocialcenter-tokyo.com イエズス会社会司牧センター

▶WEBマガジンAMOR創刊10周年記念連続セミナー「“有事”の時代に宗教は何ができるか」第1回 10月10日（土）午後2時～5時、早稲田奉仕園リバティホール（新宿区）。基調講演講師＝阿部仲麻呂神父（サレジオ修道会）。演題＝「祝福にもとづく社会刷新」。基調講演後、パネルディスカッションあり。参加費1,500円。メール（signisgoodnews@gmail.com）で要申し込み。AMOR陽だまりの丘編集部

▶レクチャーコンサート～ピアノとオルガンが織りなす祈りの調べPart.2～ 10月10日（土）午後2時～、東京純心大学江角記念講堂。出演＝橋

本創太郎（ピアノ）、米沢（鋳木）陽子（レクチャー／オルガン）。曲目（予定）＝ワーグナー（カルク＝エラート編曲）、アメリカの賛美歌編曲、橋本創太郎によるピアノとオルガンのための二重奏作品、その他。申し込み不要。駐車場利用希望者は要事前申し込み（先着80台）。対象＝18歳以上。無料。定員800人。電話042-692-0326 東京純心大学キリスト教文化研究センター

▶東京教区教皇庁宣教事業主催 宣教月間連続講座 三つの小教区を巡りながら司祭と信徒の話の聞き、「福音宣教」について考える。①10月17日（土）午後2時～3時（萩原義幸神父と信徒の話）、3時20分～4時30分（分かち合い）、5時～（アンドレア・レンボ補佐司教〈東京教区〉主司式による世界宣教の日100周年記念ミサ）、初台教会。②10月24日（土）午後2時～3時（ガブリ・ジャン神父と信徒の話）、3時20分～4時30分（分かち合い）、赤堤教会。③10月31日（土）午後2時～3時（佐藤了神父と信徒の話）、3時20分～4時30分（分かち合い）、渋谷教会。下記QRコードから要申し込み。電話080-8259-0993 東京教区教皇庁宣教事業 田所

▶NPO法人スピリチュアルケア東京主催 講演会「声に向き合う」 10月24日（土）午後



1時30分～3時30分、幼きイエス会ニコラ・バレ修道院105号室。講師＝江夏一彰（日本聖公会司祭、新生病院チャプレン、東京都立多摩総合医療センター医師）。下記連絡先へ要事前申し込み。1,000円。電話090-1818-3523（浅井）NPO法人スピリチュアルケア東京

▶憲法カフェ「私たちの社会と憲法 ニュースの見方が変わる憲法の話」10月28日（水）午後7時～8時30分、東京YWCA会館101室（千代田区）。テーマ＝「憲法とは何か？憲法の意義、憲法は誰が守らなくてはならないか？」講師＝斎藤一久（明治大学法学部教授）。参加費1,000円。学生無料。定員20人。下記QRコードから要申し込み。電話03-3293-5456 公益財団法人東京YWCA 平和と正義委員会



番組

ラジオ心のともしび（朗読・坪井木の実）

10月の放送日と執筆者

1日（木）岡野絵里子・2日（金）森田直樹・3日（土）コリーン・ダルトン・5日（月）今井美沙子・6日（火）萩原久美子・7日（水）赤井悠蔵・8日（木）岸本景子・9日（金）片柳弘史・10日（土）こいずみゆり・12日（月）三宮麻由子・13日（火）竹内修一・14日（水）許書寧・15日（木）山本久美子・16日（金）中島貴幸・17日（土）崔友本枝・19日（月）

■千葉

▶ムラ カズユキ展 10月2日（金）～14日（水）（5日〈月〉、8日〈木〉、13日〈火〉休み）午前11時から午後6時（最終日は午後4時まで）、GALLERY MUTSU（ギャラリー睦／千葉市）。作家は連日午後5時まで在廊予定。電話043-287-2355 GALLERY MUTSU

■兵庫

▶日本テレマン協会特別講演「聖堂に響くメサイア」 10月31日（土）午後1時30分～、神戸中央教会。曲目＝オラトリオ「メサイア」HWV56（G.F.ヘンデル）。指揮＝延原武春。出演者＝中村朋子（ソプラノ）、渡邊由美子（アルト）、新井俊稀（テノール）、篠部信宏（バス）、テレマン室内合唱団、同オーケストラ。入場料＝一般前売：2,500円（当日：3,500円）、25歳以下：1,000円。電話078-252-1966 KBH支援委員会

古橋昌尚・20日（火）山本ふみり・21日（水）松本准平・22日（木）ビスカルド篤子・23日（金）古川利雅・24日（土）堀妙子・26日（月）熊本洋・27日（火）谷口恵美・28日（水）服部剛・29日（木）村田佳代子・30日（金）松浦信行（以上テーマ「言葉の重み」）・31日（土）植村高雄「いただく命」。ウェブサイト（下記QRコードでアクセス可）では24時間視聴可能。心のともしび、詳細は電話075-211-9341。

